

# ● こども食堂サポート機能設置事業（資金的支援） May.2021

最終アウトカム  
(上位目的) 子どもの健やかな成長

中間アウトカム  
(戦略目的) 「こども食堂等居場所」につながった子どもが、食を通じて健康的  
(自己肯定感や他者への信頼を含む) な生活を送れるようになる

目的達成のための  
直接アウトカムとその活動

地域の「こども食堂等居場所」が充足し、その運営も安定している

支援地域内でこども食堂等居場所が広く認知されるようになる

こども食堂等居場所が子どもから高齢者まで多様な人々を包摂することができる

「こども食堂等居場所」を支える企業  
(ヒロ・モノ・カネ等)が集まる

- ・ 支援団体・機関からの問合せや相談の対応をするスタッフを配置する
- ・ 支援地域の「こども食堂等居場所」の状況を把握する
- ・ 企業を訪問し、支援をしてくれるように説明する
- ・ 企業とのマッチングセミナーを開催する
- ・ サポートセンター同士のネットワークを構築し、企業についての情報交換を行う

地域に「こども食堂等居場所」を運営したいという人(組織・機関等)が増える

- ・ 「こども食堂等居場所」をやっても良いという人(組織・機関等)を募集する
- ・ 「こども食堂等居場所」をやりたい人(組織・機関等)の見学会を行う
- ・ 行政のHPや地域のSNSを活用して広報する
- ・ 地域の人(組織・機関等)に向けて「こども食堂等居場所」の立ち上げ講座を開催する
- ・ 食フェスタを開催する
- ・ こども食堂等居場所に資金助成や寄贈食品を分配する

新型コロナウイルス感染拡大収束後もこども食堂等居場所が安心して活動できるようになる

- ・ 食材の支援や助成金を活用したお弁当配布など、こども食堂の活動が継続していることを周知する
- ・ 飲食店からお弁当の購入(提供)するなどしてこども食堂のお弁当配布活動を支援する
- ・ コロナ禍における子ども居場所支援を目的とした寄付助成の取り組み
- ・ コロナ禍でつながった企業との連携を進めるため、会議への参加を働きかけたり、継続的な支援に結び付ける

こども食堂等居場所が生鮮食品を含む常温・冷蔵・冷蔵の多様な食材寄付を受けられるようになる

- ・ こども食堂等居場所ですべての食材の寄付を受けられる様整備する
- ・ 食材保管倉庫を貸してくれるような地元企業を見つけ、交渉する
- ・ こども食堂団体が必要とする食材リストのニーズ把握・調整を行う
- ・ 資金分配団体がマッチングした寄贈に関してこども食堂等居場所に分配する
- ・ スーパーや生協など食材の定期的提供に関心のある食品関連会社を見つけ、交渉する

「こども食堂等居場所」のことを伝えてくれる人・機関が増えている

- ・ 食フェスタに学校関係者を招く
- ・ 外部の会合や会議等に参加する
- ・ スクールソーシャルワーカーと連携する
- ・ こども(親子)向けのイベントを開催したり、参加したりして広報を行う
- ・ こども食堂等居場所に関する取材があれば、積極的に対応する
- ・ 動画コンテンツを制作してこども食堂等居場所の取り組みを広報する

地域の商店や住民が「こども食堂等居場所」を理解し、協力的になる

- ・ PTAや民生委員に協力を依頼する
- ・ 「こども食堂等居場所」が行うイベントに地域の様々な機関に参加してもらう
- ・ 一般の地域住民も参加しやすいようなイベントを開催したり、地域のイベントに参加して啓発・広報する
- ・ 地域との関係性作りを参考となる好事例をこども食堂団体に研修等で伝える

「こども食堂等居場所」が多様な社会資源とつながることができる

- ・ 支援地域の社会資源の状況を把握する
- ・ 自治体の支援状況を調べ、これを発信する
- ・ 行政連絡会議等に参加する
- ・ 支援地域における「こども食堂等居場所」MAPを作成し、関係者と共有する

「こども食堂等居場所」の活動者十分なスキルを有している(子どもへの傾聴力や気づき力等)

- ・ サポートセンターに運営相談窓口を開設する
- ・ こども食堂等居場所を対象にした研修会や相談会を開催する
- ・ こども食堂等居場所へ個別訪問等を実施する
- ・ こども食堂等居場所を対象にした「歯の健康教室」を開催する
- ・ 子どもとの接し方を学べる場を開催する

「こども食堂等居場所」が食に関心を持つ機会を提供できるようになる

- ・ あんしん手帖を配布して、こども食堂等居場所に対してコロナ禍での会食や食育の取り組み方法を伝播する
- ・ 食育活動を取り入れた居場所の好事例を研修で紹介する
- ・ こども食堂等居場所ですべての食育プログラムを取り入れる際、必要に応じて助言・開催支援を行う
- ・ 食フェスタ等で食育をテーマにした講演を行う

「こども食堂等居場所」が学び・体験などの多様な体験の場を提供できるようになる

- ・ こども食堂等居場所で学習支援や体験活動を取り入れる際、必要に応じて助言・開催支援を行う
- ・ 体験機会を取り入れた居場所の好事例を研修で紹介する
- ・ 企業ボランティアや趣味・特技を活かした活動を希望される方がいれば「こども食堂等居場所」へ紹介・マッチングする
- ・ 企業へボランティア活動プログラムの企画提案を行う
- ・ 食フェスタ等で子どもの遊びや学びをテーマにした研修会を行う

# ● 子ども食堂サポート機能設置事業（非資金的支援） Sep14.2021

★非資金的支援（資金分配団体の）戦略は資金的支援（実行団体）の戦略をサポートするもの

最終アウトカム（上位目的）  
子どもの健やかな成長

中間アウトカム（戦略目的）  
サポートセンターが、子ども食堂等居場所に必要な支援を継続的に提供できるようになる

目的達成のための直接アウトカムとその活動

地域の子ども食堂等居場所がサポートセンターの取り組みに満足している

サポートセンターに子ども食堂等居場所の支援に必要な機能が供えられる

- ・毎月のミーティングにて、現状の活動を確認する
- ・評価委員会を主催し、サポートセンターの在り方について協議する
- ・関連領域（子ども、食育、居場所、行政・企業・財団などの支援機関含む）の動向を収集し実行団体に伝える
- ・子ども食堂等居場所団体のニーズ調査を実施する

サポートセンターが子ども食堂等に有益な情報を発信できるようになる

- ・当会がマッチングした企業等からの食品寄贈や人的資源をサポートセンターと共有する
- ・配食など活動形態を変えている団体が運営するために必要な情報をSNSで発信する、冊子にまとめる
- ・あんしんして子ども食堂が活動できるように必要な情報をサポートセンターに提供する

サポートセンターが子ども食堂等に対して、備えるべき知識・技術を学ぶ研修を実施できるようになる

- ・サポートセンターに対して、研修に必要な資料・テキストを提供する（研修メニューの策定に活用してもらう）
- ・研修メニューをパッケージ化しておき、必要に応じて提供する（研修メニューの策定に活用してもらう）
- ・先駆的好事例と言える子ども食堂を紹介する（研修メニューの策定に活用してもらう）

サポートセンターが支援地域において様々な資源（人・支援機関等）とつながる

サポートセンターの存在が広く認知されるようになる

- ・各地のサポートセンターの活動状況を食支援協会の広報媒体と通じて発信する
- ・資金分配団体が主催・登壇する催事でサポートセンターの紹介を行う
- ・サポートセンターが開催する「食フェスタ」・企業交流セミナーを支援する
- ・東京にて、本事業の取組の成果報告会を開催する。また各サポートセンターで開催する報告会の開催支援をする。

サポートセンターが連携すべき資源（例えば、地域の関連団体・社協などキーになる団体）を把握している

- ・「広がれ、子ども食堂の輪！」推進会議等の情報を共有する
- ・休眠預金事業以外の資金に対する情報提供、獲得支援を行う
- ・省庁（農水省や厚生労働省など）レベルの支援情報、新しい動きを収集する
- ・資金分配団体が開発する寄贈食品の分配WEBシステムを利用できるようにサポートする

サポートセンターが継続的に寄付食材等を受け取れるようになる

行政・企業が子ども食堂等の意義を理解し、応援したい、提供可能な資源・支援メニューが増える

- ・行政・企業に対して、「子ども食堂等居場所」の支援の現状と課題を発信する（研修・セミナー・HPなど）
- ・子どもに対して支援をしたいと考えている企業等の最新情報を把握しておく（全国的な企業の意向・動向を把握する）
- ・サポートセンターが開催する「企業のためのCSRセミナー」や食フェスタを支援する
- ・事業の中間報告会にて企業との連携事例を紹介する
- ・全国規模の企業の窓口を担い、サポートセンターの情報を集約してマッチングを行う

支援地域の行政機関が子ども食堂のニーズを把握し、必要な支援についてサポートセンターと協議する場がある

- ・（団体支援を得られるように）各地域における実行委員会の組織形成支援を行う
- ・サポートセンターが開催する「食フェスタ」を支援する

企業などの経済団体がサポートセンターに資金や食材を提供できるようになる

- ・食品支援が機能する物流・ストック・シェアできるロジックシステムを構築し、サポートセンターにも活用してもらえるようにする
- ・サポートセンターに冷蔵庫・冷凍庫を整備する
- ・サポートセンターが主催する衛生管理のための講習会の開催を支援する（あんしん手帖を配布する）
- ・ロジック拠点として食料を保管できる拠点を増やすために、企業や行政、福祉施設へ働きかける

サポートセンターが網に良い実践を模索できている

サポセンが常に対象地域の社会課題を把握できている

- ・調査の手伝い（つまりニーズ評価）
- ・サポセン間の情報共有

サポセンが常に変わりゆく社会課題に有効な打ち手を考えられている

- ・ロジックモデル改善支援（つまりセオリー評価）